

イエス様の 12 弟子の中に、「熱心党のシモン」と呼ばれる人が出てきます。熱心党とはその時代に活動していたグループの名前です。

熱心党のシモンが具体的にどのようなグループに属していたのかはよく分かっていませんが、当時、以下のようなグループが存在していたようです。

一つはゼロデ党です。ルカ福音書や使徒言行録では熱心党を表すのに「ゼーローテース」というギリシア語を用いていますが、このグループのことを指していると思われます。(マタイやマルコでは、「カナナイオス」というギリシア語が用いられています)。

彼らは紀元 6 年、総督キリニウスがおこなった住民登録の際、ローマのやり方に反対したガリラヤのユダ(人名)が組織しました。(使徒言行録 5 章 37 節参照)。彼らは国粋主義団体で、徹底して律法に対する忠誠を誓うとともに、それを行動にあらわしていきました。

その結果、ユダはユダヤ民族の独立を求め、血気盛んな青年を集めて反乱を起こします。ただし反乱は失敗に終わり、ユダは殺され、つき従った者も皆、ちりぢりにさせられたそうです。

また使徒言行録 21 章 38 節に書かれた「4000 人の暗殺者を引き連れて荒れ野へ行ったエジプト人」が起こした反乱も、熱心党のシカリ派によるものとされています。

熱心党のシモンがどのような立場でイエス様に従ったのかわかりません。しかしユダヤ民族の独立を願う彼の思いは、すべての人々を救いに導こうとするイエス様の福音とどう響き合ったのでしょうか。

次回は「ノアの箱舟」です。楽しみに。



「聖シモン」

ピーテル・パウル・ルーベンス

(1577~1640 年)

彼らは都に入ると、泊まっていた家の上の部屋に上がった。それは、ペトロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレ、フィリポ、トマス、バルトロマイ、マタイ、アルファイの子ヤコブ、熱心党のシモン、ヤコブの子ユダであった。

(使徒言行録 1 章 13 節)

